

彩の国いきがい大学熊谷学園校友会連絡協議会

創立40周年記念誌



目次

- 1 ご挨拶
- 2 熊連協創立40周年を祝して
- 3 創立40周年を祝して
- 4 熊連協創立40周年を祝して
- 5 熊連協40周年の歩み
- 6 学習会
- 7 文化祭
- 8 芸能祭
- 9 熊谷スポーツ文化公園ボランティア
- 10 グラウンドゴルフ
- 11 社交ダンス部会
- 12 ターゲット・バード・ゴルフ
- 13 22期校友会
- 14 25期校友会
- 15 27期校友会
- 16 29期校友会
- 17 30期校友会
- 18 31期校友会
- 19 32期校友会
- 20 33期校友会
- 21 34期校友会
- 22 35期校友会
- 23 36期校友会
- 24 37期校友会
- 25 39期校友会
- 26 2年制1期校友会
- 27 2年制2期校友会
- 28 2年制4期校友会

熊連協会長 中島 武久
(公益財団法人) いきいき埼玉
理事長 茂木 皇治
熊谷市長 富岡 清
熊谷学園所長 伊藤 榮
熊連協事務局
熊連協事務局
熊連協副会長 中澤 幸衛
熊連協副会長 梶田 国夫
熊連協事務局
CGC部長 鈴木 栄治
会長 大河原一郎
会長 根岸 貞一
会長 佐藤 寿夫
会長 森 義雄
会長 茂木 晋二
会長 関口 靖夫
会長 小林 育郎
会長 奥山宮之助
会長 渡辺 晓
会長 平塚 三男
会長 飯野 重治
会長 中村 一昭
会長 清水 靖夫
会長 近藤 富男
会長 竹内 繁生
会長 西村 光男
会長 鈴木 博之
会長 佐藤 健一

熊谷学園校友会連絡協議会創立 40 周年に寄せて

彩の国いきがい大学熊谷学園校友会連絡協議会
会長 中島 武久



彩の国いきがい大学熊谷学園校友会連絡協議会（略称：熊連協）が創立 40 周年を迎えたことは、誠に喜ばしこの喜びを分かち合いたいと思います。

この輝かしい 40 周年を迎えることが出来ますのも、先輩諸氏の皆様のたゆまざるご努力と公益財団法人「いきいき埼玉」並びに熊谷市及び県下 8 学園の校友会の皆様の温かいご支援・ご協力の賜物であり、心より感謝を申し上げます。

そして本年平成 27 年度の熊連協は、一年制が 17 の期・二年制が 4 つの期・合わせて 21 の期生で構成され、1,443 名の過去最大の会員を擁する県下最大の校友会になりました。

これもひとえに現会員の皆様が、先輩諸氏が培った伝統を継承し、熊連協の 3 大事業であります「学習会」「文化祭」そして「芸能祭」あわせて社会貢献活動の一環としての「熊谷スポーツ文化公園花壇管理活動」にそれぞれ積極的に参加され、一層の交流・親睦を図り、強い絆を深めておるからではないでしょうか。会員の皆様の日頃の活動に心から敬意を表したいと思います。

いきがい大学校友会の目的は、社会参加活動等の自主的諸活動を促進し、もって会員相互の生きがいを高め、この発展を期することにあります。

私達を取り巻く環境はめまぐるしく変化しており、特に少子高齢化が叫ばれて久しいものがありますが、今は既に 4 人にひとりが 65 歳以上の高齢者であり、このよう中にあって私達はどのような行動を取ればよいのか考えなくてはなりません。

まずは心身ともに健康で日常生活を送ること、そして長い間培った知識と経験を活かし何らかの形で社会に貢献をすることではないでしょうか。

毎日が笑顔で溢れ、友と語り、学び、遊ぶ、そして素晴らしい人生を送ることこそが校友会活動の原点といえるでしょう。

これから 50 周年に向け、熊連協の益々の発展を図るべく、会員の皆様と共に努力してまいりたいと思います。

結びに、会員の皆様のご健勝とご多幸並びにご活躍を心からご祈念申し上げ、お祝いの言葉に代えさせていただきます。創立 40 周年、誠におめでとうございます。

熊連協創立 40 周年に寄せて

公益財団法人 いきいき埼玉
理事長 茂木皇治



このたびは、いきがい大学熊谷学園校友会連絡協議会創立 40 周年を迎えられ、心よりお祝い申し上げます。

40 年間熊連協の活動が継続し、今日を迎えたのも、ひとえに会員の皆様の意欲と協力、そして仲間を愛するお気持ちの賜物と敬意を表します。

今後もなお一層の飛躍をされ、更なるご発展を遂げられますよう心よりお祈り申し上げます。

さて、彩の国いきがい大学は、昭和 51 年の開設以来、社会のニーズに合わせ、進化、発展を繰り返してまいりました。その取組みの一環として、平成 22 年に「熊谷学園二年制」が開設されました。

それまで一年制の卒業生のみで組織され、長い歴史を持つ熊連協の中に、新たな学習課程の会員を迎える入れ、一体となって活動を進めていくためには、新旧の会員の方互いにご苦労があったものとご推察いたします。しかし、現在の熊連協は、課程・期の枠を超えて、同じ熊谷の地で学んだ仲間として、学園連協の中でも最大の会員数を誇る組織となりました。2019 年にラグビーワールドカップが開催される熊谷スポーツ文化公園でのボランティア活動や、出演希望者が多く調整が難しいほどの盛況ぶりを見せる芸能祭などからは、校友会としての結束力が伺え、大変うれしく思っております。

埼玉県は日本一早いスピードで高齢化が進展しております。そのような社会でこそ、いきがい大学で学ばれたことや、そのネットワークが大いに役立つことと思います。そして、校友会の皆さんと、ボランティアをはじめとする社会貢献活動に取り組まれた成果は、一つひとつが間違いなく地域を支える力となってくると確信しております。

結びに、会員の皆さんと未永く健康に恵まれ、今後とも地域活動の推進、いきがいの創出に励まれますことをお祈り申し上げまして、簡単ではございますがお祝いの言葉といたします。

創立 40 周年を祝して

熊谷市長 富 岡 清



彩の国いきがい大学熊谷学園校友会連絡協議会の創立 40 周年を心からお喜び申し上げます。

中島会長様をはじめ、会員の皆様におかれましては、日頃より、生涯学習やボランティア活動を通じ、地域社会の活性化に貢献いただくとともに、市政運営に対し御支援・御協力を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、今年度は、新熊谷市が誕生して 10 年の節目の年であり、本市の更なる飛躍を目指し、市民の皆様とともに「新たなるステージ」へ踏み出す一歩となる記念の年として、本市独自の施策を積極的に展開し、本市の魅力を更に高め、多くの人が熊谷に住みたい、住み続けたいと思うまちづくりを進めてまいります。

また、超高齢化社会の到来や社会環境の変化に対応し、住み慣れた地域で、いつまでも健康で生きがいのある日々が送れるよう、熊谷市高齢社会対策基本計画を策定し、「いきいきあんしん 元気で長寿のまち くまがや」の実現に向けて取り組んでまいります。

会員の皆様におかれましては、健康づくりはもとより、文化・教養の向上、スポーツの振興、奉仕活動など、様々な活動を展開されており、これからも元気で、生きがいを持って御活躍いただきたいと思っております。

結びに、彩の国いきがい大学熊谷学園校友会連絡協議会の益々の御発展と、会員の皆様の御健勝、御多幸を心より祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

熊連協創立 40 周年を祝して

彩の国いきがい大学熊谷学園所長 伊藤 栄



このたび、熊連協が 40 周年を迎えることになりましたことに心よりお祝い申し上げます。

40 年の長きにわたり活動を続けてこられましたのも、会員の皆様がいきがい大学で培った友情を継続する場として、有効に活用してきた賜物であり、その行動力に対しまして深く敬意を表します。

また、熊谷学園の運営にたいしまして、日ごろ様々な面からご協力、ご支援をいただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

さて、熊谷学園は熊谷市妻沼行政センターを会場に平成 22 年度から 2 年制課程として発足し、多くの卒業生が誕生し、熊連協に参加させていただいております。

熊連協 HP を拝見し、卒業生の懐かしいお顔、元気でご活躍する姿などを拝見して、大変うれしく思っております。

当熊谷学園では、「楽しみをみんなで共有する」をモットーに笑顔が絶えない楽しく交流できる学園を目指しております。実際、グループ学習や学園祭をはじめ、クラスやクラブの仲間と様々な行事に楽しく取り組んでいます。私も学生が入学時に比べ、卒業時に「若返っている」という感じがして、その姿を見るのが毎年の楽しみになっております。

なお、今年度入学の学生から社会的背景やシニア層の多様化に合わせ、2 年制課程から学習期間 1 年間の「専攻課程」に衣替えしたところです。 したがいまして、今年度は「2 年制課程」及び「専攻課程」の両コースから、熊連協へ送り出すことになりますが、どうかよろしくお願ひいたします。来年度については、「専攻課程」を 2 (火曜、金曜) コース設けるとともに、勤労会館で行われている 1 年制課程を「一般課程」と称し、分かりやすくなる予定です。引き続き、ご支援を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

結びに、熊連協の皆様におかれましては、40 周年を契機として、会員の皆様が一層健やかに交流を図られ、ますます発展されますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

彩の国いきがい大学熊連協の歩み

平成 27 年 11 月

年号	熊谷学園・熊連協	彩の国いきがい大学	社会・埼玉県
昭和 51 年(1976 年)	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県老人大学として浦和学園・熊谷学園を開校。 7 月 21 日第 1 回入学式挙行。入学生は 2 学園で 250 名。学長は県知事が兼務。副学長は昭和 59 年度までは生活福祉部長が担当、昭和 60 年から生きがい財団理事長が担当。 		<ul style="list-style-type: none"> ・県知事 畑和就任。
昭和 52 年(1977 年)	<ul style="list-style-type: none"> ・3 月 29 日浦和学園・熊谷学園第 1 回卒業式挙行 卒業生は 2 学年で 236 名。 ・5 月に川越学園・東部学園（現在の鷺宮学園）を開校。 		<ul style="list-style-type: none"> ・国鉄が世界初の超伝導磁石利用のリニアモーターカー浮上成功。
昭和 53 年(1978 年)	<ul style="list-style-type: none"> ・第 2 回卒業生が各期同窓会の連合体として、埼玉県老人大学熊谷学園連絡協議会を設立。 ・合同学習会を企画、警察、薬剤などをテーマとして開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県巡回老人大学を県内 4 地域で開始。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新東京国際空港（成田空港）開港。
昭和 55 年(1980 年)	<ul style="list-style-type: none"> ・写真同好会発足 初代会長：星野利平（4 期） 		
昭和 56 年(1981 年)		<ul style="list-style-type: none"> ・大宮学園開校。 ・東部学園を鷺宮学園と改称。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放送大学学園設立（昭和 60 年授業開始）。
昭和 58 年(1983 年)		<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県老人大学連絡協議会（県連協）発足。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京ディズニーランド開演。
昭和 59 年(1984 年)	<ul style="list-style-type: none"> ・フォークダンス部発足 初代部長：小川正吉（7 期）。 		
昭和 60 年(1985 年)		<ul style="list-style-type: none"> ・財埼玉県高齢者生きがい振興財団発足、老人大学の運営を所管。 ・東松山学園（32 年制課程・専用校舎）開設。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日航ジャンボ機、群馬県御巣鷹山に墜落。
昭和 62 年(1987 年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲートボール部発足 初代部長：栗原 大（5 期）。 ・社交ダンス部発足（講師：内島義雄氏）。 		<ul style="list-style-type: none"> ・国鉄民営化。
昭和 63 年(1988 年)		<ul style="list-style-type: none"> ・県連協「合同ダンスの集い」発足（平成 8 年に「社交ダンスの集い」に改称）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉花博覧会開催。 青函トンネル開通（全長：53.85 km）。
平成元年（1989 年）	<ul style="list-style-type: none"> ・第 14 期生が荒川公民館で文化祭開催以降、熊連協文化祭を定例化。会場は東京電力、熊谷市緑化センターと変更。 		<ul style="list-style-type: none"> ・昭和天皇崩御（享年 87 歳）新元号「平成」施行。

彩の国いきがい大学熊連協の歩み

平成 2 年（1990 年）		<ul style="list-style-type: none"> ・伊奈学園（2年制課程） 蕨学園 1年制課程）開校 	<ul style="list-style-type: none"> ・イラク軍クウェート侵略 ・湾岸戦争勃発。
平成 6 年（1994 年）	<ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回いきがい大学熊谷学園芸能愛好者大会を開催。以降、熊連協芸能大会として毎年開催を定例化。 ・航空自衛隊熊谷基地見学会開始。以降。毎年定例化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般公募により「彩の国いきがい大学」と改称。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土屋義彦県知事就任 ・松本サリン事件。 ・第 12 回アジア大会が広島で開催。
平成 7 年（1995 年）		<ul style="list-style-type: none"> ・春日部学園開校 	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神淡路大震災発生 ・地下鉄サリン事件。
平成 11 年（1999 年）	<ul style="list-style-type: none"> ・県連協主催第 1 回グランド G 大会に初参加、以降、参加を定例化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県連協第 1 回グランド G 大会開催、以降毎年開催定例化。 	
平成 12 年（2000 年）	<ul style="list-style-type: none"> ・写真同好会 20 周年記念誌発行。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いきがい財団本部を浦和大久保合同庁舎に移転。 	
平成 13 年（2001 年）		<ul style="list-style-type: none"> ・浦和学園・大宮学園を「さいたま学園（浦和コース）」「さいたま学園（大宮コース）」と改称。 	
平成 14 年（2002 年）		<ul style="list-style-type: none"> ・「財いきがい埼玉」発足。 財埼玉県高齢者生きがい振興財団と財埼玉県民活動総合センターが統合。 同時に彩の国いきがい大学の運営を所管。 ・所沢学園を開校。 	
平成 15 年（2003 年）			上田清司県知事就任
平成 16 年（2004 年）	<ul style="list-style-type: none"> ・熊谷学園 1年制学舎を熊谷市立勤労会館に移設。 ・ターゲット・パート・ゴルフ部発足。初代部長：根岸貞一（27期）。 ・彩の国まごころ国体：ボランティアで参加協力。 ・第 12 回芸能大会で福祉募金実施、熊谷市福祉協議会に寄付、市長より感謝状を受ける。 		<ul style="list-style-type: none"> ・第 59 回（彩の国まごころ国体）が熊谷市をメイン会場として埼玉全域に開催。
平成 17 年（2005 年）	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動に対し、財埼玉県公園緑地協会理事長より感謝状受ける。 創立 30 周年記念事業を企画。 		

彩の国いきがい大学熊連協の歩み

平成 20 年(2010 年)		・1 年制課程の所沢学園を移転し、入間学園を開設。	・参議院選挙、民主党大敗。
平成 21 年(2011 年)		・さいたま学園（浦和コース・大宮コース）の学生募集を停止。 ・1 年制課程「専科コース」の東松山学園・伊奈学園を開設。	・東日本大震災・福島第 1 原発事故発生。
平成 22 年(2010 年)	・熊谷学園に 2 年制課程を開設し学舎を熊谷市役所妻沼行政センターに。 ・学習会会場を熊谷市文化センターを文化会館大ホールに変更。 ・熊連協事務局長の任期を 1 年と定める。		
平成 23 年(2011 年)	・フォークダンス部、部員不足で廃部。	・2 年制課程の春日部学園を開設。	
平成 24 年(2012 年)	・事務局に事務局次長を置く事を決定 県連協主催第 1 回芸能祭に熊連協参加。	・県連協主催第 1 回芸能祭を埼玉会館で開催。	・妻沼聖天山が国宝に指定される。
平成 25 年(2013 年)	・熊連協広報部を設け、ホームページを開設。 ・芸能祭における募金、熊谷市より「市民しあわせ基金」への協力に対し、感謝状を戴く。	・県連協主催第 2 回芸能祭を熊谷会館で開催、幹事校熊谷学園 川越学園。	
平成 26 年(2014 年)	・熊連協理事として広報部部長を置く事に決定する。 ・熊連協パソコン教室を熊谷市スポーツ文化村「くまびあ」を利用し、10 月に開設 第 1 期生 22 名。 ・第 22 回芸能祭、熊谷市報に初めて掲載、当日ジェイコム熊谷が初めて取材及び放映もされる。		・ラグビー世界大会会場の一つに熊谷ラグビー場が決定。
平成 27 年(2015 年)	・熊連協 3 大事業（学習会・文化祭・芸能祭）を創立 40 周年記念事業とする ・対外広報：ジェイコム熊谷の取材・放映・熊谷市報に文化祭、芸能祭掲載又、ホームページで創立 40 周年記念寄稿集を作成する予定（12 月掲載）。	・2 年制課程の学生募集を停止。 ・専攻課程（1 年制）東松山学園・伊奈学園・熊谷学園・春日部学園を開設。	

彩の国いきがい大学熊連協の歩み

彩の国いきがい大学熊谷学園校友会連絡協議会歴代会長

年号	代	会長名	期	備考
昭和 51 年～昭和 57 年		同窓会組織としての活動で連絡協議会としての会長は存在しなかった。		
昭和 58 年～平成 7 年	初代	吉田 庄一	7 期	
平成 8 年～平成 11 年	2 代	小林 忠勝	12 期	
平成 12 年～平成 13 年	3 代	味崎 数夫	16 期	
平成 14 年～平成 19 年	4 代	高橋 隆雄	20 期	
平成 20 年～平成 21 年	5 代	前田 秀司	25 期	
平成 22 年～平成 22 年	6 代	國友 富貴夫	26 期	
平成 23 年～	7 代	中島 武久	30 期	

彩の国いきがい大学熊谷学園校友会歴代事務局長

年号	代	事務局長名	期	備考
平成 3 年～9 年度	初代	新井 年行	13 期	
平成 10 年～14 年度	2 代	戸森 昭三	19 期	
平成 15 年～16 年度	3 代	福田 又造	24 期	
平成 16 年～17 年度	4 代	渡部 和夫	26 期	
平成 18 年～21 年度	5 代	北沢 寿博	29 期	
平成 22 年度	6 代	千野 克彦	30 期	
平成 23 年度	7 代	清水 通弘	32 期	
平成 24 年度	8 代	吉岡 正治	33 期	
平成 25 年度	9 代	長山 功	34 期	
平成 26 年度	10 代	原 邦夫	35 期	
平成 27 年度	11 代	水間 卓	2-1 期	

学習会

熊連協事務局長 水間 卓



彩の国いきがい大学熊谷学園（略称「熊連協」）は、昭和 53 年に「埼玉県老人大学熊谷学園連絡協議会」を発足させ、「合同学習会」を企画した。その後継続して学習会を開催していたようですが、定かな記録がありません。

記録が残っているのは、創立 30 周年記念誌の中に

○ 記念講演開催（学習会）

平成 18 年 1 月 25 日（水） 熊谷市文化会館大ホールで開催

講師「彩講会 会長 大西亨」・テーマ「私のボランティア体験」と記載。

○平成 19 年 1 月 25 日に熊谷市商工会館大ホールで「羽生総合病院 院長 松本裕史先生」・テーマ「健康で長生きする為に」が開催され、聴講者 289 名にのぼり大盛況。

○平成 20 年度から学習会は、夏に開催されるようになり現在に至っております。

○平成 24 年度 8 月 18 日（土） 熊谷市文化会館大ホール

講師「気象予報士 平井信行氏」・テーマ「暮らしに役立つ気象情報聴講者 418 名。

○平成 25 年度 8 月 21 日（水） 熊谷市文化会館大ホール

第 1 部 講演 講師 「ジャーナリスト 佐藤安弘氏」

演題 「来た球を打つ」

第 2 部 演奏会 熊谷女子高ギターマンドリン部 聴講者 418 名。

○平成 26 年 28 日（木） 熊谷市文化会館大ホール

第 1 部 熊谷県立女子高校マンドリン部

第 2 部 落語独演 「真打 金原亭伯楽師匠」 聴講者 502 名

○ 平成 27 年 8 月 28 日（金） 熊谷市文化会館大ホール

第 1 部 演奏会 熊谷市消防音楽隊による「火災予防・啓蒙活動」演奏

第 2 部 講演 講師「彩講会 会長 岩瀬昇一氏」

演題 「高齢者が元気で生き生きと過ごすには」 聴講者 430 名



熊連協創立 40 周年記念・第 26 回文化祭

文化祭実行委員長 中澤幸衛

11/6～9 に熊谷市緑化センターにて平成 27 年度第 26 回文化祭を開催しました。259 点もの素晴らしい作品が展示され、延べ 479 名ものご来場を頂き本当にありがとうございました。特に各期実行委員の皆様には作品申込の取り纏めから開催準備、来場者の受付、作品撤去作業まで多大のご協力を頂き深く感謝いたします。

昨年との違いは熊連協創立 40 周年記念の冠に相応しいレイアウトや展示をどうするか？ということでした。広報部の佐藤さんと塚田さんと打ち合わせをし、熊連協史年表、市長祝辞、会長挨拶文、その他各期の記事や写真を掲示しました。特に各期の思い出の会報や文集コーナーは、会場内で最も多い「人だまり」が出来ました。また贊助作品として今年の県展で「埼玉県美術家協会長賞」を受賞された、2・4 期伊藤さんの洋画（版画）の展示は 40 周年記念開催に花を添えて頂きました。

今後も熊連協 3 大事業の文化祭が各期校友会活動を活発化し、会員相互の刺激となり、創意欲の向上の一助となることを祈念します。



平成27年度 文化祭実行委員会

熊連協 会長	中島武久 (30期)
文化祭実行委員長	中澤幸衛 (2-1期)
熊連協 副会長	根田国夫 (35期)
事務局	水間 卓 (2-1期) 中島 洋 (36期)
会計	山崎志津子 (33期) 深田 充 (32期)
実 行 委 員	豊野宗義 (22期) 福田久造 (24期) 日下勝美 (25期) 新井三士 (26期) 川村 修 (27期) 福島宜之 (28期) 江森逸郎 (29期) 松崎修房 (30期) 石川四郎 (31期) 馬場 均 (32期) 推名 藤 (33期) 長山 功 (34期) 渡谷文男 (35期) 渡辺敬雄 (36期) 田島英之 (37期) 伊藤正美 (38期) 島村清美 (39期) 佐藤春信 (2-1期) 川田雄一 (2-2期) 高木民男 (2-3期) 伊藤清治 (2-4期)



芸能祭

副会長 梶田国夫

熊連協主催芸能祭も平成26年度で22回を迎えました。

この間、各芸能祭を担当された会員、役員等の方々にはそのご努力と意欲に心から敬意を表します。



平成26年度芸能祭は、ダンス、手品、大正琴、コーラス、民謡、話芸など等66組の参加を頂き、成功裏のうちに終了いたしました。参加者全員が楽しそうな雰囲気の下、今まで培ってきた各自の技と経験を存分に表現されたことに心を奪われました。

そして、拝見している私どもに大きな勇気と感激を与えてくれました。

今後も、この伝統を受け継ぎ後々に伝承していきたいと存じます。



熊谷スポーツ文化公園の花壇整備「花ボラ」

熊連協事務局長 水間 卓



いきがい大学熊谷学園校友会連絡協議会（略称「熊連協」）では、校友会のボランティア活動（シニアの社会貢献活動）の一環として、平成19年度から平成27年度まで継続して、埼玉県熊谷スポーツ文化公園内の「花壇」（10区画）の花植え・除草・水くれ等の活動を行っております。この活動は、毎年5月から翌3月までの間、毎月第2・4水曜日を活動日として、校友会員が参加して花壇の環境整備のボランティア活動に当たっております。

【H27年度活動実績 5月～12月まで 11回 参加総数1,516名】 平成27年12月9日現在

平成27年度第1回「花ボラ活動」は、5月27日（水）晴天に恵まれ243名のご参加を頂き、「春の花植え、除草作業」を30分程の作業で終了しました。11回目は、12月9日（水）に「156名」の参加を頂き「花壇周辺の落ち葉拾い」を実施しました。活動に参加頂きました皆様に御礼申し上げます。尚、7・8回の8月26日・9月9日は雨天のため中止になりました。これから活動にもご協力を宜しくお願い致します。

※今年度から、花ボラの作業前に準備運動として「ラジオ体操」を実施しています。

1. 「花ボラ」各期第11回までの延べ参加者数、参加者総計1,881名

No	期	人数	備考	No	期	人数	備考
1	22期	0		12	34期	119	
2	24期	0		13	35期	117	
3	25期	12		14	36期	181	
4	26期	0		15	37期	153	
5	27期	37		16	38期	122	
6	28期	6		17	39期	150	
7	29期	50		18	2-1期	154	
8	30期	75		19	2-2期	107	
9	31期	126		20	2-3期	74	
10	32期	94		21	2-4期	126	
11	33期	159			合計	1,881	

2). 今後の予定

H28年3月9日（水）9:00～
今年度最後の花ボラです、
是非参加をお待ちしています。

※参考実績

○H25年度実績 13回 1,723名
○H26年度実績 13回 1,982名
○3年間の実績 35回 5,583名

グランドゴルフクラブ 大活躍

GGC部長 鈴木栄治

10月30日（金） 宮代町の「はらっパーク宮代」で開催された第17回県連協グランド・ゴルフ交歓大会は、209名の仲間が参加し熱戦が繰り広げられ、我が熊連協G・Gチーム23名は中島会長を中心に大奮戦し、入賞者10名の中に4名が入賞しました。それに他の19名の方も好成績で、熊谷学園の大活躍で大会が終りました。参加選手の皆さん本当にご苦労様でした。



入賞した4名は下記の方々です。

4位 27期 武井 康正 73打(1本) ·	5位 28期 笠原 政子 73打(2本)
6位 M2期 大槻 哲男 73打(2本) ·	8位 26期 平川 勝夫 74打(2本)



来年の第18回交換大会は、熊谷・東松山学園が担当して復旧なる熊谷ドームで開催予定。

社交ダンス部会

会長：大河原一郎

社交ダンス部会は、現在 12 のクラブ（期）147 名の会員で活動しています。

10 年程前は 15 （期）で 200 名を越える会員であったと記憶しています。

年間の事業は、3 つあります、6 月の熊連協ダンスパーティー、10 月の県連協ダンスの集い、11 月の熊連協ダンスパーティーです。

他に、2 月の熊連協芸能祭、3 月の県連協芸能祭には、各クラブが積極的に参加しています、特に、熊連協芸能祭では、全体の演目数の 3 分の 1 以上がダンス部会のクラブが占めるなど、この芸能祭を大いに盛り上げています。

さて、この部会の 10 年間を簡単に振り返ってみると、役員体制では、3 つのクラブが順番に担当して来していました、しかし、近年クラブ数が減少傾向にあり、順番性を廃止、規約を定め新しい体制で、平成 27 年度から出発しました。

ダンスパーティーの会場については、熊谷市民体育館を使用していました、ここでは、ダンスシューズは、傷をつけるという理由で認められず、運動靴でした。ダンスシューズで踊りたいという思いから、22 年 10 月のパーティーより、勤労会館大ホールに会場を変え、27 年 11 月のパーティーからは、大里コミュニティセンターという事で、ダンスシューズで踊れるようになった。

これからダンス部会を思うとき、近年ダンス愛好者の減少が気になります、10 年前は、期の会員は 20 名以上、ここ数年は 10 名を下回る程になってしまった、既存の会（期）も、高齢化が進み会員の減少傾向、廃部も、さらに、これから卒業期にあっては、ダンスクラブが結成出来ない状況です、会が無くなってしまっても、ダンスを続けたい人、今後の卒業期でクラブが結成されなくても、ダンスをやりたい人の受け皿を作ることこそ、これからの部会のあり方にだと思います。

ダンスについての Q&A

Q：ダンス楽しい

A：やってみなよ：楽しいって言うより気持ちいい～かな

「解説：スケートの羽生選手が、322 点の得点を出した時の、演技終了後のあのポーズ、やったーではなく、気持ちいい～だと思う、ダンスも、音楽に、踊るステップが乗って、パートナーとの意気も会い、2 分 30 秒ほどの短い時間を過ごした時、気持ちいい～って感じた時の醍醐味が味わえる、これがダンスだよ。」地道な、練習が重要である。練習の過程で、姿勢が良くなる・友達が出来る・健康が得られる・むずかしいステップを覚えるため、脳が活性化する→ボケ防止・相手が異性である→オシャレ、身だしなみ、気持ちがいつも穏やかになる。

さあ～ダンスをやってみなよ、

ターゲット・バードゴルフ部の設立と活動

熊連協 TBG クラブ 会長 根岸貞一

彩の国いきがい大学熊谷学園が創立40周年を迎えられましたこと心からお祝い申し上げます。熊連協では、現在クラブ活動として社交ダンス・グラウンドゴルフ・ターゲット・バードゴルフの三クラブが承認され助成を受け、各期の枠を越えて活発にかつ友好的に活動が行われ親睦が図られております。

そして、私共ターゲット・バードゴルフ（略称TBG）愛好者は各期毎にTBGクラブを設立して活発に活動を行なっていますが、健康増進と更なる相互の親睦と友好を図るとともに、いきがいを高めることを目的に平成16年4月1日「熊連協TBGクラブ」を設立しました。

平成27年度の会員構成は、27期6人・28期6人・29期7人・31期16人・32期9人・33期7人合計51人規模で友好的に交流と親睦を図るために活動をしております。

また、事業活動は春・夏の年2回の親睦大会、定例練習会を年間5回、県外遠征研修会、二連協（川越・熊谷）交流親睦大会等を開催してTBG技術の向上更には親睦と交流を図って活動をしております。

平成27年度熊連協TBGクラブ役員（三役）

会長 根岸貞一（27期） 副会長 横塚万二（28期） 副会長 北沢寿博（29期）
会 計 秋池隆司（28期） 会 計 中山能秀（31期）

27.10.15秋期大会開会式 根岸会長挨拶



平成27年10月15日（木）好天に恵まれ行田コースにおいて33名の参加者で秋期大会が盛大に行われ親睦を深めた有意義な大会になりました。

参考までに
団体戦優勝 32期
準優勝 28期
3位 29期
個人戦男子優勝 32期 岩崎利夫氏
準優勝 29期 風間栄吉氏
3位 33期 中島征夫氏
個人戦女子優勝 32期 鈴木須美江様
準優勝 32期 新井良子様
3位 29期 小島光子様



入賞の皆さんおめでとうございます。

22期校友会の活動状況について

『磨き・輝く』

22期校友会長 佐藤 寿夫

「熊連協」創立40周年を迎え、心からの祝意を申し上げます。そして学びしその一人として、所感の一端を述べたいと思います。

私達22期は、平成9年に発足し、熊連協所属の期では一番古い期であります。早いもので年が明けると、発足20周年を迎える。今までに20年以上続いた期は無い。我々22期は25名全員が80歳になります。

我々の世代は、戦後の荒廃や物の欠乏時代で意のごとく学ぶ機会を得ず、企業戦士や実生活戦士であったと思う。充分な知識習得や知能訓練を身につける事が困難な時代であった。「学ぶ」ことへの渴望が還暦を迎えてからの学園生活だったと思う。そのような機会を得られたことに感謝すると共に、その延長戦上にある「熊連協」があることを自覚せねばならない。

企業戦士として仕事一筋の40年を過ごし、出来なかった夢や楽しみを校友会活動で企画を立て、次々に実現し体験出来たことは、まさに「福袋」を買って中身が当たったという感じである。いきがい大学に入り期待していた以上の結果であったことに喜びを感じている。

色々な行事を行った中で「リニアモーターカーの試乗」「アカライン開通直後」の通行「東京エレクトロニクス」の工事現場の見学と完成後の見学「内閣総理大臣官邸」「首都圏放水路施設」「愛知万博」「本庄・早稲田新幹線駅の建設現場」「原子力発電所」「国立造幣局」等々、全てがとても無理な場所の見学ができたのも、申請目的の欄に「いきがい大学校友会学習会」で夢と希望を叶えるため、と記入すると必ず許可がおりた。楽しく充実した日々がこれからも続くものと思います。

「福袋」は中身が見えないが「希望も絶望も、喜びも苦悩も、愛する気持ちも憎む気持ちも」全て入っているのが「福袋」だとある書で読んだ事がある。

まさに、校友会も熊連協も共に、進むべき道の知恵を出し合って最高の当たりの「福袋」を作り上げていく組織であると思う。そうすることが益々の繁栄に繋がるものと期待しております。

「磨き・輝く」これが我々22期のキーワードであります。

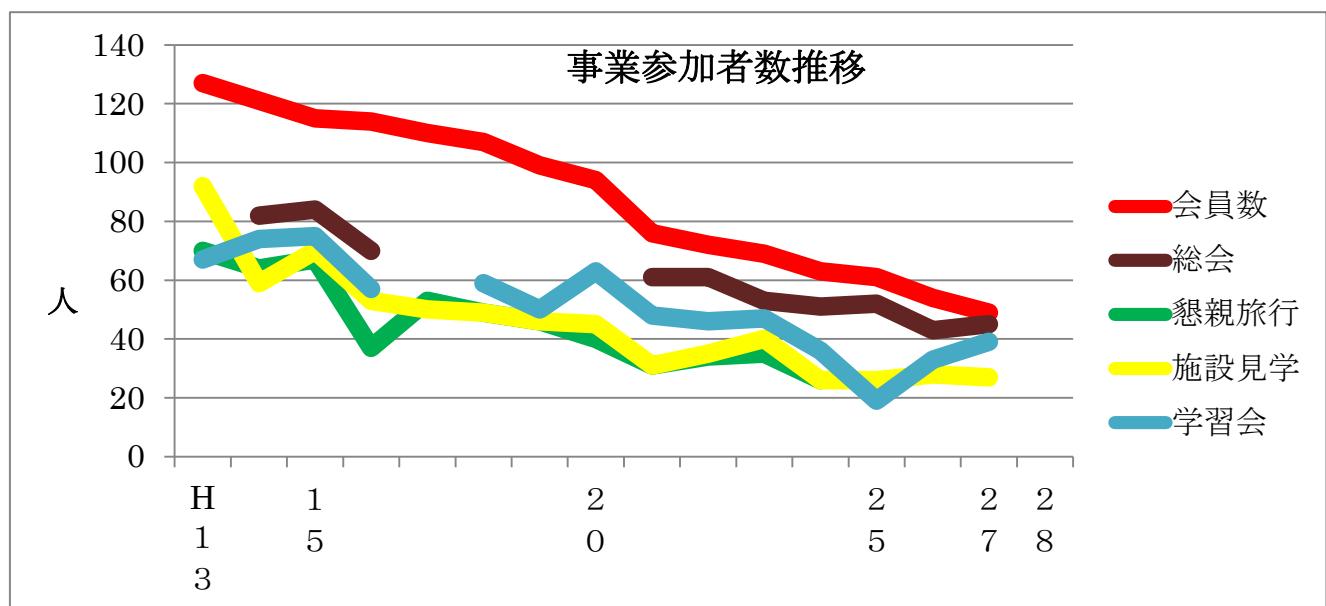
25期校友会の歩みと現況

25期 会長 森 義雄

平成13年の校友会創立以来の歩みと現況をご紹介します。

退会された方や解散した班あるいは3名までになった班等で会員は49名になりましたが、一泊旅行や約50回班会を行っている班もあります。12あったクラブは5つになりましたが、史跡めぐり・ハイキング・グラウンドゴルフ・パソコン・カラオケクラブは例会を行って、健康づくりと懇親を楽しみまた、新たな知識の吸収にも挑戦しています。幹事の負担や参加者の固定化等で一泊の懇親旅行は中止しましたが、学習会や施設見学会は実施し、世間の動向や最近の話題に关心を持ち続けるとともに、熊連協活動にも積極的に参加しております（最近の実績：学習会18名、文化祭出展7点、芸能祭出演2組。花ボラ延べ10名参加、HPへの投稿）。

一日も長く校友会を存続したいとの会員の熱い思いと色々な方々のご協力のお蔭で、4年前には10周年記念式典を挙行し、平成28年4月には15周年記念総会を開催する予定です。



25期の日下さんは、すでに受け持ち区域は無いのにも関わらず、『皆さんの元気な姿を見るのが楽しんで毎回花ボラに参加しています』との事、頭が下がります。 ハイキングクラブの皆さん！



27期校友会の活動状況について

27期校友会長 茂木普二

熊谷学園創立40周年を迎えるに当たり、心からお祝いを申し揚げます。そして40年間、着々と素晴らしい歴史と伝統を築いて来られた諸先輩に対し敬意を表す次第です。

さて、私達27期は今季で創立13年目を迎え、会員60名で元気に活動中です。平成24年1月には、56の方々に出席を頂き、創立10周年記念式典を行い、会員相互の信頼、友好、親睦を深め更なる団結、絆が生まれております。

今後も「校友は楽しかるべきもの」を念頭に、皆さまと相談しながら各事業を推進して行きます。又、避けて通ることの出来ない会員の減少、それに伴う班、役員体制の問題点については、今後の情勢を見ながら皆様と検討、対応してまいります。

これにより知恵を絞りながら、これからの中の長い校友会活動に繋げていきたいと思っております。

最後に熊連協全会員様のご健康を祈念いたします。

29期校友会の活動報告

29期校友会会長 関口靖夫

我が29期校友会、平成17年3月卒業後発足から数えて満10年を越えました。130名でスタートした同期の仲間も本年4月時点では在籍数は58名と半減寂しい限りです。当然のように5～6年頃までは校友会、班、クラブ活動は大勢の参加で活気が満ち溢っていました。しかし時の経過で会員本人は勿論、配偶者・家族の健康具合で校友会を退会という選択せざるを得ず、他の理由も含め校友会在籍数は減少の一途となっています。

29期校友会の存続危機を回避するために、心身ともに負担を感じる班長=班体制の改善等を検討すべく理事会の議題として常に掲げています。おそらく熊連協の各期とも共通の悩みを抱えておられる方々が時系列順に改善工夫を記述します。

○年会費の引き下げ…・平成24年より3,000円→2,000円、平成27年より1,000円各班クラブに対する助成金、各班に対する通信費、三大事業(親睦旅行・施設見学・学習会)に対する助成金のカット。特に三大事業は受益者負担の理解を求めて参加者が負担する。

冊子スタイルの会報をFAX可能な1枚・会報へ変えることで経費を大幅削減。

○ 理事の定員削減…・平成26年より役員(理事)は各班・各クラブから1名とする。

従来は班長、副班長、クラブ部長で校友会役員(理事)は構成されてきましたが在籍会員数70名を下回るのに、30%を超える役員数のアンバランス、退会者が多く正・副班長の選出に悩む班の実情、これが理由で退会された会員あり。

○ 会報スタイルのリニューアル…・平成26年8月発行より変更(通しNo. 20号)

29期校友会・会報「さいゆう・29」も年々、写真・カラー1頁が増えて予算も10万円を突破する勢い。満10年も過ぎ、紀行文等のマンネリ打破もかねて情報伝達のスピードUP、内容の均一化を求めて基本的には理事会終了後の1週間以内に議事録と熊連協、県連協、班・クラブの状況報告を記述し発行する。



○ 「第29期10周年記念の集い」

実施日 平成27年2月25日 (水)

会場 深谷市・鹿鳴館 参加者 63名

※10周年記念イベントのため、諸々の事情で退会された元会員にも全員に案内結果、9名の参加があり、うち4名の方が校友会復帰され大収穫。お昼から談笑の4時間、飲食と余興(フリダンス・民謡パフォーマンス等) クライマックスはアコーディオンの生演奏による歌声喫茶風のカラオケで盛り上りました。



○ 『お出かけ、紅葉の平林寺散策』

実施日 平成27年11月12日 (木)

行き先 ココロ武蔵野工場⇒平林寺の散策

参加者 35名

※今年は企画部の行事は二つ(施設見学、親睦旅行)新たな試みとして史跡めぐり部企画による公開募集として、お出かけプランを退会された方にも案内、3名の参加を頂きました。

30期校友会の活動状況について

30期校友会代表 小林 育郎

熊谷学園第30期校友会は、平成18年4月に誕生しました。この頃は、集い・学び・交流し上下関係のない纏りあう素敵な大きな輪です。

この輪の中で生きがい作りのため、不器用な自分が校友会活動を行えるのは同会スタッフとされました。定例会議、その打合せ会等において迅速な処理を心がけ、皆様の助力・協力を得ながら行事計画がスムーズに進むよう努めました。熊連協及び県連協の芸能祭のスタッフとして加えて頂き未知の世界の経験、学園仲間との交流など良い思い出を作ることができました。このような中から「誠心誠意」の大切さを教えられました。今、我が期の変化を感じながら、70代の青春を楽しんでおります。「明るく・楽しく・元気よく」（中島会長モットー）で熊谷学園第30期生の「輝き」を発しながら「思ったとおりにはならないが、やったとおりになる」を胸に活動を継続していきたいと思っております。



31期校友会会长 奥山宮之助



私たちの世代になると、時間がたちまち経過するように感じる人が多いようです。

先が短いのに時間が速く過ぎ去るのは本当に困ります。脳科学者は「新しいことを学び続ける、新しい場所を訪れる、新しい人に会う」と脳の取り込む情報量が多くなり、時間はゆったりしてくるといいます。

自力で時の流れを遅くしたいのですが、振りかえって、いきがい大学に入学してからの10年間はまさにその実践ではないでしょうか。

時間がゆったりと流れ、さまざまな活動をとおして充実感を味わえた気がします。

熊谷学園31期10周年、熊連協40周年という節目の平成27年度もお蔭さまで無事に期末を迎えるとしております。企画部に大いに汗をかいていただいた学習会、日帰り研修旅行はいずれも大勢の参加による大変有意義で盛り上がった催しであったと思います。

そして、私たちは過去10年の実績をふまえ、次の10年へ向けて校友会活動の見直しを実施しました。27年度初めの会員数88名は熊連協のなかで在籍率がトップクラスとはいえ、毎年、さまざまな事情で退会される方がおり、また、高齢化による活動内容の変化も出てきております。広報部による会報に対するアンケート実施や、総務部による31期規約の見直しを行い、組織や年会費の改革案をまとめ提案いたしました。理事会、各班のご検討を経て平成28年度総会にて決定いただきます。

後になりましたが、平成27年度役員、理事そして会員各位のあたたかいご支援とご協力に対しまして、心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。



47名が参加した研修旅行(首都圏外郭放水路「地下神殿」)

32期校友会活動報告

32期校友会会长 渡辺 晓

熊連協創立40周年おめでとうございます。

私たち32期は校友会が出来て8年目を迎えております。

会員数も現在83名とかなり減ってきましたが、期独自の旅行会、ボールリング、パークゴルフ等のスポーツ大会、そして学習会の3大事業を今でも続けております。熊連協主催の学習会、文化祭、芸能祭、花ボラにも積極的に参加させていただいております。特に芸能祭と文化祭は自分たちの日頃の学習や練習の成果の発表と、他の期の発表を勉強できる機会として大いに利用させていただいております。クラブ活動もダンス部、ターゲット・バードゴルフ部に参加させていただき他の期の方々との交流を深めております。熊連協は各期の校友会の積極的参加のもとに成り立っております。時代の流れとともに事業内容も変遷してきますが、設立当初の哲学 各期との絆を深めるモットーに永久に続くことを願っております。

33期校友会の活動状況について

33期校友会長 平塚 三男

熊連協創立40周年記念おめでとうございます。

日頃からの熊連協の活動に対し、会員を代表しまして、心からお祝い申し上げます。

我が33期校友会は今年度、7周年を迎えたが特別なイベント等はいたしませんが、この機会に、発足から現在状況を報告したいと思います。校友会発足から、役員は4期人となり、前役員さんは無事任務を果たして参りました。今年度（7年目）に入り、会員の健康状態等、また諸般の事情により、退会者が毎年増えており、会の規約等の改正に向け、現在検討中であります。

- 1) 校友会活動：特に校友会行事の「社会化見学」は毎年参加者が多く大変好評であります。今度は揚水式発電所（地下）等を見学してきました。この「神流川発電所」は長野県の南相木ダムと群馬県の上野ダムの落差653mを利用し、最大出力282Kwの発電を行う「世界トップクラス」の純揚水式発電所です。いきがい大学熊連協の皆さんに紹介したいと思いますので、是非見学してみてください。
- 2) 班活動：お互いに助け合い、少ない班は、他班との共同で親睦を深め、少なからず楽しんでいるのが現状です。
- 3) クラブ活動：少ない会員数ですが、何とか活動を続けています。まさに「継続は力なり」と思います。

これから33期は『若さとパワー』を担っている人に、お願いしたいと思っています。

以上



34期校友会活動の現況

34期校友会長 飯野重治

校友会発足後、6年目に入り、34期会員の活動を基本に熊連協の活動の横につながる活動も大切な活動と位置づけ日常活動を行っております。年初の会員は93名ですが、会員の中にはすでに物故された方もおり、また、体調を崩してなかなか行事に参加できない方もおられます。

活動は班活動とクラブ活動を中心に本部、企画部の計画（施設見学・学習会・日帰り旅行等）を中心に挾んで実施していますが、班活動は会員が減少し、一つの班では実施が困難になってきている班も出てきています。また、クラブ活動も会員の減少により他の期の協力を得て活動しているクラブもあります。

会員の減少は加齢や病気によることがほとんどですが、中には家庭の事情（家族の病気、孫の子守、同居人の介護）等で参加できなくなっているケースもあります。

現在、元気に活動している人たちも毎年歳を重ねる訳ですから、会員の減少は現状では致し方ないことだと思いますが、とはいっても今楽しく活動している人たちがこれからも34期の仲間でよかつた、熊連協の会員でよかつたと思えるような活動を、これからもみんなして知恵を出し合って模索していきたいと思います。そして少しでも長く、34期と熊連協の仲間で居られるよう、よりよい取り組みをしていきたいと思います。そのような前向きな活動に取り組んでいくための努力をし、それが健康寿命を伸ばすためになること信じて、参加するみんなが今後も楽しくなるような活動を目指していきたいと思います。



ハイキングクラブ (2010・7・23)



東京電力柏崎原子力発電所見学 (2010・9・15)



35期私の校友会活動

35期校友会長 中村一昭

2010年入学、翌年3月の卒業を前に東日本大震災で電力不足と耐震不足による建物の関係で卒業式は中止された。そして2011年から始まった35期の校友会活動。

年度毎の役員・理事さんにお世話になって行事に参加している。

クラブ参加は当初からハイキングクラブに入部、約年6回の活動がクラブ役員の皆さんのお世話で実施された。山に登るたびに体力の確認をしつつ、美味しいおにぎりを食べて、下山後の温泉で命の洗濯だ！



同時に入部したパソコンクラブは月2回の活動。クラブ員が交替で講師を行うのでお互いが勉強になる。おかげで随分いろいろな事を覚えられた。今は個人でブログを5年間、毎日、日記代わりに書いている。



校友会発足後2年経過したのち2014年に史跡クラブにも入部させていただき、年6回の企画があって各地の史跡の勉強に加えて、おいしい地元のお料理をいただき楽しんでいる。バスの中では、史跡の背景を各班担当の方から説明もあって楽しい、又地元ボランティアの方の説明も楽しく拝聴して改めて勉強になる。更に班単位の年6回の活動も加わってこの活動を全てこなすと、毎週1回以上の行事に参加することになるので、結構忙しいが、外にてて体の動く間はできる限り出席をしたい。校友会活動を通じて多くの方に知り合えたこと、又多くのことを教えられた。この様な場を与えてもらって、人生後半が充実している。校友会という場に有難うと言いたい。

他に自治会の仕事や熊谷市体育協会の一つ、体操教室で幼児と小学生への基本的な体操の指導も行っている。家庭菜園も180坪分を遊び場として楽しんでいる。

36期校友会の活動報告

36期校友会長 清水靖夫

私達36期は、熊連協にお世話になって4年目を迎えました・

人間的には未だ、未熟の部類に属し、幼さを兼ね備えた少年少女といったところでしょうか
無論、蓄えもなく、歴史的なものも持ち合わせていません。

そこで、ここでは36期の主たる活動状況について、チョッピリ紹介してみたいと思います。

《主たる活動状況と、活動事例》

名 称	数	備考
1、ボランティア活動（個人・団体）	団1	※希望として将来増を目標
2、各班単位の活動	10	現状維持の続行
3、グループによる活動	6	現状維持の続行



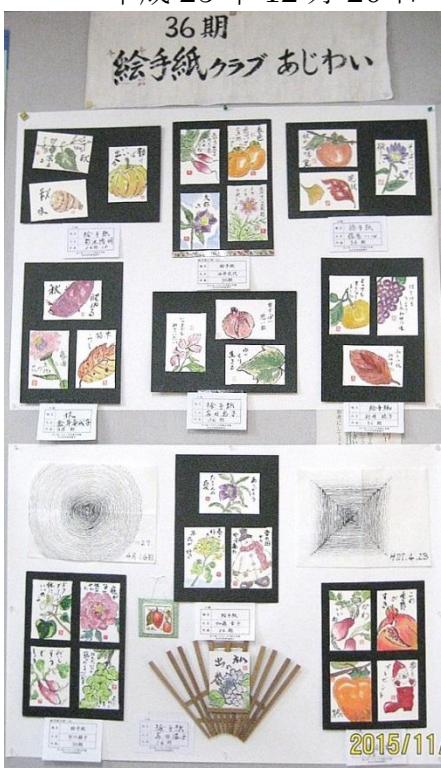
ハイキングクラブ『由比の絶景をバックに』

平成25年12月20日



班活動 メークインの植付準備

平成27年3月16日



熊連協創立40周年記念の文化祭に展示されました36期生の作品です。

37期校友会 活動報告

37期校友会長 近藤富男

37期校友会活動の今年度の特色は、会員が地域貢献活動を行うのを援助するため傾聴ボランティア養成講座を実施したことである。既にボランティア活動をしている二年制4期と協働して、約30名で毎月第一・第三金曜日の午前中、勤労会館第三会議室で心理学理論と傾聴実習の勉強を続けている。

6月30日（火）には、熊谷市内の介護施設で見学研修を行い、10月から12月にかけては実際に施設の協力を得て傾聴ボランティア体験研修を行った。研修を受けた中で、新たに19名が12月からボランティアデビューを行うことになった。

その他の活動として、懇親旅行として9月30日（水）、総勢68名、バス2台で羽田空港のJAL整備工場の見学を行った。そして現在は、来年3月29日（火）の総会兼自主学習会に向けて着々と準備を進めている。

○傾聴ボランティア要請講座授業風景



平成27年9月30日懇親旅行で『JAL工場見学&お台場』へ67名の参加でした。

39期校友会の意義・目的

39期校友会長 竹内繁生

一年間の学園生活を通して培った仲間との絆を卒業後も、班活動やクラブ活動を楽しみながら更に、親睦を深め、第39期生としての行事を遂行し一体感を共有する。併せて、熊連協（上部組織）の三大事業（学習会・文化祭・芸能祭）並びにボランティア社会活動に、積極的に参加し協力をする。

これから社会に貢献するために、校友会の一員として、自分を磨くことに精進し、いきがい大学の公開学習に参加し社会の変化や知識を修得する。

また、コミュニケーションを図るためにサロンを開設するなどして、私達の生活の源となるオアシスのような校友会活動にしていきたい。

第39期熊谷学園校友会役員

会長 竹内繁生	理事(班)	理事(クラブ)
副会長 総務部長 島村清美	1班 6 五十嵐文子 7 荒岡一成	クラブ部長
企画部長 柳瀬 進	2班 20 大塚頼司 23 大屋廣男	ハーモニカ 4 新井 淳
広報部長 大塚頼司	3班 25 大橋ひろみ 31 河野良次	旅行 31 河野良次
会計 佐々木スミ子	4班 47 佐々木スミ子 48 坂本勝美	ハイキング 45 斎藤正美
鳴村克與	5班 53 佐々木秀紀 57 篠田登茂子	史跡めぐり 50 櫻井省三
理事	6班 61 鳴村克與 63 島村清美	コーラス 62 島田重子
班から2名	7班 77 高橋豊知 78 田中悦子	パソコン 63 島村清美
各クラブから1名	8班 82 永井小枝子 83 竹内繁生	社交ダンス 73 高田さき子
監事 15 大河原輝雄	9班 96 原 誠 98 本間弘子	太極拳 75 田井厚司
58 澤井博保	10班 107 柳瀬 進 114 渡邊由美子	ゴルフ 110 山崎定一



2年制1期校友会活動

2-1期校友会長 西村 光男

平成24年3月に2年制1期生の学園生活も終了し、校友会が発足しました。何をすれば良いのか手探りの中、熊連協の1員として迎えて頂き、校友会の運営について学ばせて頂きました。それと1年生卒業生が2年制に入学していた事により、彼らのリードで物事がスムーズに進みました。その上、校歌にあります様に“意欲に燃えるシニア”の集まりは知恵と知識の上に長い人生経験を持っており、結集した力は目を見張るものがあります。

校友会運営の大きな柱であるクラブ活動は活発で現在11クラブが活動しております。特筆すべきはハーモニカクラブと游悠芸能クラブで熊連協芸能祭の常連として、またボランティアとして、お声が掛る人気集団です。更に加えて、中山道を歩く会は卒業と同時の24年4月に日本橋を出発し、27年10月に京都三条大橋まで37回とゆっくりの歩き旅だったがいたわり励まし合い、段々と元気な集団になって行った。他に絵画、絵手紙、囲碁、吹矢、ゴルフ、遠足、木工、ジャガイモ畠と頭や身体をふんだんに使い、健康寿命がどんどん延びる元気なシニア集団に成長しております。



ハーモニカクラブ（KHC22）が元気な高齢者が主体となって行う地域貢献・社会貢献活動に対して、活動が認められ知事公舎で授賞式が行われ上田知事より表彰されました。



素晴らしい1ページを閉じる。大雨に濡れて歩いた日も道に迷った事も、思い出は尽きない。最後の2日は粋な計らいで寺院巡り優雅な気持ちで長旅を終わらせる事が出来ましたこと、感謝申し上げます。 星 順子

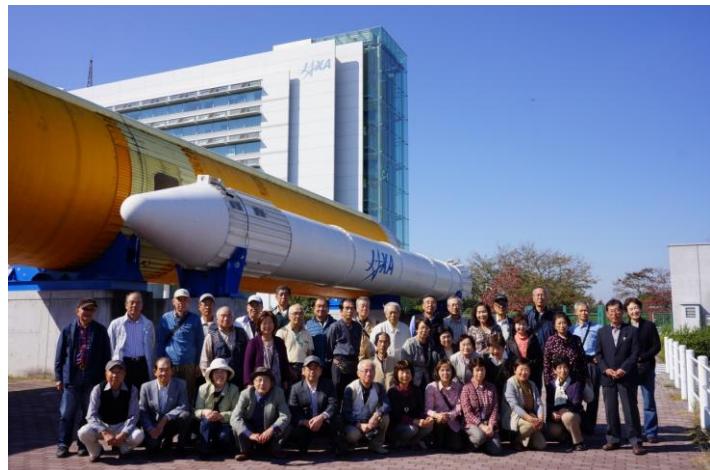
中山道は江戸の日本橋～草津宿で東海道に合流、京都の三条大橋に至る、69か所の宿場が置かれ約554,1km、東海道よりチョット長くなる。

6月6日(火)快晴午前6時30分熊谷発～午後5時30分三条大橋制覇、熱なった目がしらをそっと抑え河原に降りる、万歳三唱、橋の上でも一緒に祝ってくれている。旅の醍醐味きわまる。一生忘れる事の出来ない

2年制2期私たちの校友会活動

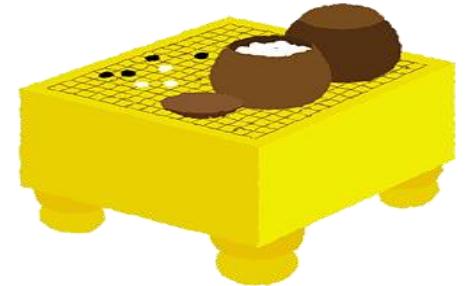
2-2期校友会長 鈴木 博之

2年制2期 校友会は、H25年（2013年）4月にスタートし、今年で3年目を迎えています。



私たちの独自事業としては、外部施設等の見学会、学習会、懇親会などです。これらの行事やクラブ活動を通じ、仲間の輪が広がっています。また、自分たちのHPを持ち、これに投稿する人も、増えてきています。こちらのHP (<http://kumagaya2.sakura.ne.jp>) もご覧ください。

「施設学会 つくばの JAXAでの記念写真です（H27年9月）



クラブ活動は、12のグループで活躍しています。

2年制4期の校友会活動

2-4期校友会長 佐藤健一

熊連協40周年目の記念すべき年に、私達2-4期校友会が産声を挙げました。心もとなくヨヨチ歩きですが、明日に向かってすすみ簡単には友達・知人が出貴重な財産である新した。学園というタガ（縛とを 気心の知れた仲く自由に過ごす。又共にたまにはレクレーション一緒に学んだ証しとしてが一同に会し、音楽・学旧交を温める。まがりな順調にスタートをしてで“こころの健康クラブ” “絵画クラブ” “太極拳クラブ” 民踊クラブ “ハーモニカクラブ”、卒業時に新たに“自然を愛する会” “毛筆クラブ” “ふるさと大発見クラブ” が誕生、多種多彩な8つのクラブと3つのクラス（科）が本当に楽しそうに活動している様子がホームページから窺えます。いきがい大学に、卒業した私達にとって校友会を通じた活動がこれから本当の“いきがい”に繋がることを祈っております。



猛暑の中、農林公園「夏祭り」に39期、2-4期参加！

平成27年 農林公園夏祭りに（8月1~2日）ボランティア初参加し缶ぽっくり・シャボン玉・竹馬の担当で大勢のお客さんに楽しんで頂きました。





平成28年1月15日発行